

# 古典の日フォーラム2021

老若男女問わず最も親しい日本の古典文学といえば『源氏物語』と『平家物語』がトップに挙げられることでしょう。特に平家物語の基調音である「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。…」の無常観は、日本人の感性に深く響くものがあり、鎌倉初期の成立以来、様々な表現の分野で多く取り上げられ、能の世界では平家物語から想を得た作品が80曲に上ります。

2021年の「古典の日フォーラム」は、平氏一門の栄華を築いた平清盛が没して840年、日本の国民文学の代表作の一つであり、語り文化の代表作ともいえる平家物語の諸行無常・盛者必衰の劇的な世界をお楽しみいただきました。

安田登先生のコーナーでは、先生の音頭で会場の皆さんと声を落として(本当は大きな声を出したいところなのですが、コロナ禍でもありますので…)朗読を楽しみましたが、お家ではどれだけ大きな声を張り上げていただいても結構です！

日時: 2021年11月1日(月)午後1時~4時

場所: 京都劇場(京都市下京区烏丸塩小路下る京都駅ビル内)

内容: 総合司会 岩槻里子さん(NHK京都放送局アナウンサー)

## 〔第1部〕

### ◆画楽交響

ロッセーニ弦楽ソナタ第2番イ長調

演奏 船岡陽子ヴィルトゥオーゾデルカント

辻井淳(第一ヴァイオリン・京都市交響楽団元コンサートマスター)

森園康一(コントラバス)宇田川元子(チェロ)森園ゆり(ヴァイオリン)

題字「生々流転」川瀬みゆき(書道家)

宣言:橋本夏果

第12回古典の日朗読コンテスト

[中学・高校生部門]大賞受賞者

### ◆主催者挨拶

古典の日推進委員会会長 村田純一

文化庁長官 都倉俊一

### ◆講演「西行・長明・定家の見た源平の争乱」

講師:浅見和彦(成蹊大学名誉教授)



西行・長明・定家は、偶然か源平の争乱を目の前で体験してきた人達です。未曾有の乱に対して、それぞれの立場で目や耳をふさぐことなく、経験したこともない事態を正面から見据え、自分達の考えを育てきました。その考えは、3人が生きてきた当時に劣らぬ激変の時代を今に生きる私達にどう生きていけばよいのかの教科書になっています。さらに興味深いのは、私達が知らなかった平家物語に登場する人物の人柄についてのお話です。平家物語をもう一度紐解かれてみてはいかがでしょうか。

◆ 転換期に読む「平家物語」～能楽と語りとともに～

I 解説と朗読

安田登(能楽師)×塩高和之(琵琶奏者)



平安時代から鎌倉時代へ価値観が変わった時代に生まれた『平家物語』。まさにパンデミックが襲い掛かる変化の時代、転換期の今の私達に平家物語は何を語りかけてくれるのでしょうか？安田先生のお話を聞いてご自身で問いかけてみてください。

お話の合間に、安田先生の音頭と塩高さんの薩摩琵琶をバックに(なんと贅沢なことでしょう！)会場の皆さんと朗読をいたしました。平家物語は、目で読むのではなく、琵琶法師が琵琶を弾きながら語って聴かせた、耳で聴く物語です。声に出して詠む(謡う)ことは、まるで自分が物語で活躍する人物になるかのような、新しい発見がありました。皆さんもご友人と拍子を取りながら、声にだして謡ってみてはいかがでしょうか。

◆ II 半能「忠度」

シテ(忠度) 金剛龍謹(能楽金剛流若宗家)

笛 左鴻泰弘  
小鼓 曾和鼓堂  
大鼓 河村大  
後見 豊嶋幸洋  
地謡 種田道一  
宇高竜成  
山田伊純  
惣明貞助



【あらすじ】

藤原俊成の御内の者が出家して、摂津国須磨浦まで来ると、薪に花を折り添えて背負った老人が桜の木蔭に花を手向けて帰ろうとするのを呼びとめ、老人に一夜の宿を乞う。老人は、この花の蔭にまざる宿はないだろうと言い、この桜は平忠度の跡の標に植えられたものと教える。

僧が花の蔭に旅寝すると、夢中に忠度の亡霊が出現し、「行き暮れて」の歌を読人不知とされたことが妄執の中の第一と嘆じ、俊成の子の定家に作者名を付けてくれるよう話してくれと頼む。そして都を落ち、須磨の海岸で岡部六弥太と戦い、ついに六弥太に首を打たれて果てる経過と、六弥太が箆に付けられた短冊の歌を見て、忠度であることを知る條りを物語った後、跡を弔われんことを願う。

お能の演目の多くは、この世に想いを残して亡くなった人達が、その残念な想いを聞いてほしくて書かれたものです。残念な想いをつらつらと語られるのですから、観ていると眠くなるという方が多いのではないのでしょうか。その時は寝てもいい、と安田先生はおっしゃいます。これは普段思いつかないような過去の記憶、自分の切り捨てた魂が、お能に登場する人物と重なって、生きている私達の魂も鎮めるものだという考えです。でも、寝ている暇はありません。忠度の無念さを是非、聞き留めてあげてください。